苫小牧市長　岩倉博文　様

苫小牧腎友会要望書

苫小牧市におかれましては、日頃より苫小牧腎友会の活動にご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。

我々人工透析患者が、より人間らしく過ごすために必要な環境を整えるために、今年は5つの項目について請願します。市長さまと関係者の皆さま、市民の皆さまに更なるご理解を得るための努力をして行きたいと思いますので、ご検討のほど宜しくお願い致します。

要望項目

①　苫小牧市では、重度障害者タクシー料金助成制度、福祉ハイヤー助成制度、市内路線バス無料乗車証交付制度があります。これに加え、5年前から自家用車による通院補助として、年額 9,000 円の支給を受けられるという選択肢が増えました。透析患者の自家用車に対する通院補助は、通院の多様性に対応しているものであり、心より感謝申し上げます。一方で、通院補助が始まってから5年が経過しましたことから当時とは、消費税率や物価も変わっております。いま一度、自家用車の通院補助額の適正化について検討頂けますよう、お願い申し上げます。

②　臓器移植は透析患者が透析を逃れる唯一の手段です。北海道では 548 人の腎臓の移植希望者がいながら、昨年度は移植の実施件数はゼロ件でした。今年に入ってからは、上期で 5 件が実施されました。北海道での長年の移植件数の推移をみると、移植医療は前進するどころか、むしろ、後退しているようにさえ思えます。この原因は、移植実施までの待機年数が平均 15 年から 20 年以上とたいへん長いことが挙げられます。臓器提供の意思を持つ方は多いものの、意思カードへの無記名

や親族間での話し合いがなされておらず、移植に至らないケースもあるということでした。できるだけ多くの方に、臓器移植の現状を知って頂くには、たくさんの人が見る媒体で情報を提供することが重要です。そこで、市が出版する媒体において移植の現状について説明する内容の掲載を検討頂けますよう、お願いいたします。

③　災害時の要支援者の確認と名簿作成の活動をして頂いていることについて感謝申し上げます。要支援者を把握することは、災害対策の第一歩として、たいへん意義があることで、今後もこの活動を継続して頂けるよう、お願い申し上げます。

このことに関して、苫小牧腎友会がお役に立つことがあれば協力は惜しまないつもりですので、宜しくお願い致します。さらに、名簿等が整った次の段階として、実際に災害が起きた際の要支援者への駆けつけ行動は、町内会の単位で行うのが現実的と考えられますので、居住地区や集合住宅の部屋単位での要援護者支援、避難誘導の役割分担ついて、具体的な訓練を継続して頂けますようお願い申し上げます。

私達の透析には、透析設備とスタッフ、透析機械を動かす電力を得るための予備の発電機に加え、大量の水が必要です。透析を行うには、これらの確保が必須です。さらに、透析施設が使用不能の状態を想定

した対策として、苫小牧市と北海道透析医会と市域内だけでなく、市域を超えて施設側との事前協議や患者の受け入れ医療機関との打ち合わせも必要と思われます。我々、透析患者は透析を継続できる環境を切に願っておりますので、このことについて検討頂けますようお願い致します。

④　現在まで治療法がなかった難病を自分の細胞を使って必要な臓器を再生する道を開いたiPS細胞に代表される再生医療は、目の網膜、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、パーキンソン、アルツハイマー、脳梗塞、脊髄損傷などの難病の治療への扉を開こうとしています。6年前から全腎協、道腎協、苫小牧腎友会においてiPS細胞による再生医療への協力と推進を活動計画に入れ、希望を持って活動しております。全国に先駆け、全道の患者、家族、施設、協力団体の皆さんで、iPS細胞による再生医療への支援として、募金と研究者への励ましの手紙など患者それぞれの思いをお届けする活動を行っております。研究の進捗をただ傍観しているのではなく、少しでも研究の後押しをしたいとの思いからです。そして、これらの医療の進歩が私達患者に生きる勇気を与えてくれますし、また、市民の皆さまにも関心を持ってもらうことで、病気を抱える患者の理解にもつながればと願っております。また、苫小牧に住む患者、

市民の皆さまがお互いを理解しあい、共生、共存の出来る街、福祉の街づくりに役立つことを心から願っております。市民の皆さまが再生医療に関する情報に接する場を設けて頂けるような配慮をお願い致します。

⑤　昨今、高齢化に伴う医療費の増加が問題となっております。日頃、人工透析医療で命を維持している我々として、この問題から目をそむけることはできないと感じております。今年の3月に、小ホールにて開催された慢性腎臓病の講演会(CKD医療講演会)において、200人を超えるたくさんの方々が参加しているのを拝見し、たいへん驚きました。我々、苫小牧腎友会は社会貢献の一環として、来年の秋頃にCKD医療講演会の実施を計画しております。多くの腎臓病予備軍の方にお越し頂けるように、医師会や、はすかっぷプラザ(旧　保健センター)だけでなく、苫小牧市と積極的に連携して、CKD講演会を進めていきたいと存じます。例えば、市の共催に加え、広報誌で周知して頂くことや、3月の時のように参加者へ"とまチョップポイント"を付与するなどの協力をお願いしたく存じます。

また、年に1度実施する健康診断は、個人の健康状態を判断する良い機会です。近年、塩分の過剰な摂取が、脳梗塞などの重篤な病気を引き起こすことが明らかになっており、減塩が健康を維持するキーワー

ドであると考えられるようになりました。広島では、尿検査から推定摂種塩分量を算出し、基準値に収まっているようであれば、医師から表彰される等の活動を行なっていると聞いております。苫小牧でも、このような減塩に関する取り組みの実施について検討して頂きたく存じます。

令和元年11月13日

[redacted]

苫小牧腎友会　会長　工藤彰洋